

特定非営利活動法人 冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2021(令和3)年度 事業報告書

(2021年6月1日～2022年5月31日)

2021年度事業概要

2021年度も昨年度と同様、あらゆる場面で新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた一年となった。冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークの事業についても、いったん受託事業者として決まった仙台市遊びの環境実証実験が延期されたほか、感染拡大状況に合わせ、プレーカーで巡回する遊び場活動についても、休止と再開を繰り返さざるを得なかった。

その一方、指定管理者として運営する「海岸公園冒険広場」は、デイキャンプ場の休止や一部遊具・道具の利用制限などはあったものの、本年度も毎日開園を続け、「こんな時だからこそ外へ」というニーズを受け止め続けた。また「のびすく若林」についても、屋外での活動を拡充するなどの工夫に努めた。ワクチン接種の進展の一方で新型株の登場などもあって状況は刻一刻と変わっていったが、その時にできることを模索し続けた。

そんな中ではあるが、2022年3月に策定された「仙台市百年の杜づくりプロジェクト推進計画」では「プレーパークの拡充」についてより踏み込んだ記載がなされた他、5月には延期となった実証実験もスタートするなど、今後の遊び環境づくりにつながる新たな施策の動きは一步一步進んでいる。こんな時だからこそ市民側に主体的な動きがひろがっていくことが重要と考え、地域による遊び場づくりを応援する動きに力を入れて取り組んだ。そのための基盤づくりとして、新たなプレーカーの拠点となる北山活動ベースも設置している。

また、仙台市沿岸部の東日本大震災被災地域での活動についても、海岸公園冒険広場を拠点としつつ、周辺地域一帯で継続した。地域ではハード面の「復興事業」が一区切りついたこれからこそ、まちづくりを考え取り組む重要な時期と位置付けての新たな動きも始まっており、施設運営者としても引き続き地域に貢献していくことが重要となっている。地域の思い出をつなぐこと、地域の魅力を伝えることを大切にしながら、遊び場・交流サロン・みどり再生活動など一体となった取り組みを続けた。

◎ 事業計画に掲げた「重点的取り組み」の達成度評価について

2021年度事業計画において掲げた6つの重点的取り組みについて、4段階の達成度評価を行なった。定款に沿った事業区分に基づく「1. ～ 9.」の記載内容との対照と合わせ、本表にまとめる。

「重点的取り組み」項目	主な事業	定款区分	達成度評価 (◎-○-△-×の4段階)
① 海岸公園冒険広場の着実な運営と、周辺も含めた展開	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者としての海岸公園冒険広場の着実な運営 沿岸部の他の活動・施設とも連携しての賑わい・交流の創出 震災の「記憶」の保存・記録・発信や、経験を活かした事業による防災への貢献 冒険広場および周辺地域の魅力を引き出す、生き物調査・みどり再生活動 震災を伝えるほか、体験活動等も含めた学校の授業等への協力 	1. 2. 4. 5. 6. 8.	◎ コロナ禍の影響は大きく、計画通りできなかったものも少なくないが、昨年と同様に「屋外を選ぶ」流れも受けつつ、様々なひろびろと遊ぶ工夫を凝らしながら来園者を受け入れた。 引き続き、震災を伝える・震災に備える取り組みも続けている。
② 震災被害の大きかった地域を中心に取り組む遊び場づくり	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災被災地域周辺での遊び場活動(東日本大震災復興支援財団子どもサポート基金事業) 上記活動の場を中心とした、サロン事業等の展開(みやぎ地域復興支援助成金事業) 	1. 3. 5. 8.	○ コロナ禍のなかでの活動となり、計画回数の実施はできなかったが、ネットワークづくりも含め、休止期間も準備を進め、新しい場での活動も含め、前年度よりも幅広い展開をみる事ができた。
③ 地域住民による遊び場づくり活動の促進・支援	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民などの遊び場づくり活動のはじめの一步の積極的支援 住民発意による遊び場運営の促進・支援(ハタチ基金助成金事業) 	8.	◎ 重点事業②の中で、地域のさまざまな主体とかかわりをもち、新たな遊び場活動がスタートする成果も得た。他にも、昨年度新たに活動を始めた団体に対し、研修の実施も含めた支援を行なった。
④ のびすく若林と連携した、乳幼児親子への遊びの大切さの発信	<ul style="list-style-type: none"> のびすく若林の日常運営のなかでの、ふるさと広場も活用した外遊びの機会の創出 「出前のびすく」の継続的な展開と、若林区内各所でのあそび場活動との連携 	2. 4. 5. 8.	◎ コロナ禍により休館した期間はあったが「屋内より屋外」というニーズもあり昨年度から始めた日常的な館外活動は従来の「のびすくプレーパーク」とともに継続。近隣の公園で「おそとのびすく in 木ノ下公園」というアウトリーチ型の乳幼児向け遊び場づくりも開始した。
⑤ 子ども・子育て支援計画の策定も受けた、調査・提言活動	<ul style="list-style-type: none"> 子ども・子育て支援計画・みどりの基本計画の新計画期間の施策動向の確認 仙台市が実施する遊びの環境実証実験業務の受託実施 「全国都市緑化仙台フェア」の動向の確認と取り組みの検討 	7.	◎ 「仙台市百年の杜づくりプロジェクト推進計画」にプレーパークの拡充について踏み込んだ記述がなされるなど、一定の成果が見られた。「仙台市遊びの環境に関する実証実験業務」を受託し5月より取り組みがスタートした。
⑥ 組織運営基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> 事務局体制の強化 事業部門のスタッフ体制強化 新中長期ビジョンの策定 	9.	○ 事務局長を置いた新事務局体制がスタートすると共に、新体制になった事業部門についても、北山活動ベースを開設するなど充実させている。一方、収支状況は厳しくなっており、今後の戦略を見定めながら、中長期ビジョンも不断に見直していく必要がある。

1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

(1) 事業実施にあたっての、連携組織の構築：海岸公園冒険広場運営委員会

地域に根差した公園運営を目指し、地域関係者を委員にした運営委員会を開催した。

- ・東六郷コミュニティ市民委員会
- ・七郷地区町内会連合会
- ・六郷小学校、七郷小学校
- ・仙台市私立幼稚園連合会若林地区
- ・六郷市民センター・児童館
- ・七郷市民センター・児童館
- ・せんだい3.11 メモリアル交流館
- ・仙台市若林消防署六郷分署
- ・仙台市若林区まちづくり推進課
- ・仙台市若林区公園課
- ・仙台市建設局公園課、百年の杜推進課
- ・海岸公園馬術場

(2) その他、他団体とのネットワーク

- *NPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワークとの乳幼児事業における連携（事業8.(2)(8)等）
- *仙台市遊びの環境実証実験業務における連携（西公園プレーパークの会、プレーワーカーズ、マザー・ウイング）
- *海岸公園各地区指定管理者による「海岸公園運営協議会」（仙台市公園緑地協会事務局）
- *ふるさと杜再生プロジェクト（仙台市百年の杜推進課事務局）委員
- *宮城県子ども・若者支援会議（チャイルドラインみやぎ事務局）参加
- *仙台東部エリア交流施設連絡協議会（荒井タウンマネジメント事務局）参加
- *わたしのふるさとプロジェクト（六郷市民センター事務局）参加
- *多様な学びを共につくる・みやぎネットワーク「みやぎ居場所 meeting」参加
- *若林区民オンラインまつり 2021 参加（特設サイトへの海岸公園冒険広場紹介動画提供）
- *日本冒険遊び場づくり協会 地域運営委員

上記の他、事業8.の各事業実施にあたり、地域団体、NPO、児童館、市民センター、小学校等、多くの団体と連携を行なった。

2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

(1) 宮城県内外の冒険遊び場活動についての情報収集・発信

理事会を中心とした従来からの仙台市周辺の冒険遊び場活動についての情報交換に加え、他団体とのネットワーク等を通じて、被災地域を中心にひろがりを見せる県内外の遊び場づくり活動の情報を収集すると共に、活動に関心のある人たちに紹介した。

5月には、プレーワーカーズ主催「みやぎ・プレーパーク114ヶ所キャンペーン」を海岸公園冒険広場で共催、県内の遊び場活動団体が交流すると共に、関心のある人たちに情報提供する機会ともなった。

(2) ホームページ等での発信

最新情報についてはフェイスブックページを中心に情報発信を行なっていたが、今後力を入れていきたい遊び場づくりの相談・支援をはじめとし、情報発信力を強めるために法人ホームページの全面リニューアルに向けた作業を進めた（公開は2022年6月）。また併せて、ツイッター・インスタグラムとの連携も始めている。

(3) 「冒険あそび場だより2020」の発行

2021年7月、前年度の活動をとりまとめて発行した。

(4) 取材・報道等への協力

事業8.を中心に、新聞や情報誌等のメディアの取材に協力した。

- <新聞> 6/3(木)河北新報「震災10年あしたを語る／子ども癒やす身近な場必要」
- 4/4(月)河北新報「街で会いましょう(279)スケートの聖地」

- <ラジオ> 7/3(土)・10(土) ラジオ3「ラヂオはいらいん若林『六郷東部の原風景』(前編・後編)」
- 11/15(月) ラジオ3「子育て支援情報局『のびすくネット仙台』」

<雑誌・広報誌等> 5/26(木) 河北ウィークリーせんだい「風薫る季節 風で遊ぼう 風車づくりにチャレンジ」他1件

<Web> 12/22(水)~3/31(木) JR東日本企画「せんだい・なとりの今魅力再発見」特設サイト内 海岸公園冒険広場紹介ページ

<その他> 1/1 仙台市政だより 1月号「明日への伝言~東日本大震災 10年復興の軌跡」

1/12 仙台市広報課 facebook ページ「自然の中で自由に遊ぼう! 海岸公園冒険広場」

6/25~7/11 JRフルーツパーク仙台あらはま パネル展示「フルーツの力で笑顔を。-仙台市東部沿岸地域の復興の歩みと JRフルーツパーク仙台あらはまの取り組み-」

12/22~3/31 JR東日本企画「せんだい・なとりの今魅力再発見」特設サイト内「まなぶー震災とその先の未来学習」にて海岸公園冒険広場の被災と被災後の取り組みの紹介

3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

(1) 仙台市遊びの環境に関する実証実験業務

仙台市の「遊びの環境の充実」施策として昨年度実施された「仙台市遊びの環境に関する調査・研究業務」を受けて行われる実証実験業務について、NPO 法人都市デザインワークス、株式会社コトブキと同事業体を組んで受託した（当会が代表団体）。当初の2021年9月~翌3月までの予定は新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて2022年4月~に延期されたが、5月には七北田公園で1回目の事業を実施し、プレーリーダーのいる遊び場に加えインクルーシブ遊具も設置して、数多くの親子の参加を得ると共に、遊びの環境のあり方についてのアンケートを行なった。（2022年度まで計5回の予定。）

○1回目：七北田公園 5/20(金)~23(月)

※以降、出花体育館（6月）、水道記念館屋外広場（7月）、青葉通駅前地区（9月）、元気フィールド仙台（12月）に実施予定。

(2) 若林区六郷東部地域における「遊びの原風景」調査

年配の住民からかつての豊かな遊び経験の話を聞く調査は、今年度も遊び場と並行して実施した。今年度は、昨年度作成した「六郷東部の原風景」の冊子を増刷し、学生ボランティア団体リルーツの協力を得て六郷東部地域の住民に全戸配布した。

(3) 六郷小・七郷小での遊び環境調査の実施協力

千葉大学 木下勇氏・高崎経済大学 寺田光成氏ほかによる「子どもの外遊びを通じた地域住民との関わりに関する研究」に協力した。12月に六郷小・七郷小の3・4・5年生を対象とした外遊びに関する実態調査を目的としたアンケート実施に協力した。同調査では、4~5割の子が平日は一日も外で遊んでいないという結果をはじめ、子どもの遊び環境の現状についての貴重なデータが得られた。（詳細は分析中）

4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

冒険遊び場づくりへの相談のほか、遊び場づくり団体、その他NPO、行政、学校、研究者等から寄せられる各種相談に対応、必要に応じ具体的な支援も行なった。

○地域主体の遊び場づくり支援 【ハタチ基金助成】

子どもの遊び環境づくりに関心を持ち、自ら動く人が増えることを目指し、「何かできないか」と考えている地域住民等のはじめの一步の取組みを積極的に支援すること、またすでに取組みが始まっている遊び場の運営が軌道にのるための支援を行なうことを重点事業と位置づけて取り組んだ。

・六郷保育園隣接「キッズファーム」でのあそび場展開支援 …事業8.(2)③

・よへえぬまプレーパークの活動支援

…プレーリーダーを派遣したほか、プレーパークづくり研修を活動場所近くで実施した。…事業6.(1)

・その他、遊び場づくりの相談 仙台市太白区长町地区 ほか

○その他遊び場づくりへの協力依頼（プレーリーダー派遣）

- ・みちのく湖畔公園里山地区「森の楽校」のプレーパーク 7/3(土)・8/7(土) 2回 のべ4人派遣
- ・大和町教育委員会「あそび場どうじょ」（大和町吉田教育ふれあいセンター）1回 3人派遣

○講師派遣等

- ・6/14(月) 東北福祉大学社会福祉学科（専門演習Ⅰ）清水准教授ゼミ
- ・7/12(月) 日本冒険遊び場づくり協会「プレーカーでの遊び場づくり座談会」（オンライン）
- ・10/30(土) 南光台東子ども会育成会インリーダー研修
- ・11/21(日) あれスペ実行委員会「あれから10年スペシャル」
- ・2/22(火) 岩切児童館職員研修

○小中学校授業等協力

- ・6/11(金) 東仙台小学校 授業協力（海岸公園冒険広場）
- ・8月 南中山小 総合学習(防災) ビデオ収録による協力
- ・11/10(水)～12(金) 南小泉中学校 職場体験受入れ

○研究者・学生からのヒアリングへの対応等

- ・10/18(月) 神戸女子大学学生・日本冒険遊び場づくり協会
「日本におけるプレーカーを用いた移動型遊び場の活動実態に関する調査」
…日本冒険遊び場づくり協会「はじめよう！プレーカーで広がる遊び場づくり」に事例収録
- ・11/6(土) 宮城学院女子大学 佐藤ゼミ
- ・11/9(火) お茶の水女子大学学生「災害時における子どもの遊び」に関する研究
- ・11/13(土) 高崎経済大学地域政策学部特命助教 寺田氏
- ・11/25(木) 東北大学課題解決型演習「被災地復興の課題に取り組む」
- ・12/17(金) 山形大学工学部建築デザイン学科 佐藤研究室

○視察・見学受入れ等

- ・11/6(土) 早稲田大学 地域社会と危機管理研究所
- ・3/27(日) 減災環境デザイン室(京都府)・あれスペ実行委員会
- ・5/17(火) 宮城県都市計画課公園緑地班 ほか

5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

- (1) 若林区を中心とした、プレーカーを活用しての遊び場の運営（→事業8. 参照）
指定管理者として運営する海岸公園冒険広場と連携する形で、若林区六郷・七郷地域を中心に、プレーカーを活用しての巡回型遊び場を運営した。
- (2) 宮城県を中心とした遊び場活動の支援（→事業4. 参照）
県内各地で始まっている遊び場づくりの取り組み等を支援するため、プレーリーダー派遣等を行った。

6. プレーリーダーの養成に係る事業

- (1) 講座・研修
コロナ禍のなか、今年度も海岸公園冒険広場スタッフ向けの内部研修が中心となったが、後半は、遊び場づくり活動を応援するための公開講座を2回実施した。

実施日	内容	講師	実施枠組等	対象
2021/6/15	避難誘導・防災あすまや設営訓練	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
9/1	応急手当研修	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
9/27	個人情報・情報セキュリティについて	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
7/20	水循環に関する講座と天水桶作り実習	仙台リバースネット・梅田川	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
11/5	避難誘導・防災あすまや設営訓練	内部研修	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ
2022/1/9	「ガクちゃん」に聞く、遊び場・居場所づくり：名古屋の事例	こどもNPO・ 緑児童館館長 塚本 岳 氏	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般
3/4	防災あすまや設営訓練	海岸公園冒険広場 岩淵 健史	海岸公園冒険広場 指定管理業務	スタッフ 周辺施設職員
3/13	プレーパークづくり勉強会～子どもの“遊び”を見つめ、寄り添う方法～	(一社) プレーワーカーズ 廣川 和紀 氏	「ハタチ基金」事業	ボランティア 一般

(2) インターン受入れ

NPO 法人ドットジェイピーのソーシャルインターンシッププログラムより派遣されてきたインターン生を受け入れた。コロナ禍により遊び場活動への参加は限定されたため子どもの遊びに関わる施策の調査研究・政策提言系の活動を中心に、夏期（8-9月）2名、春期（2-3月）3名を受け入れた。

7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

(1) 仙台市遊びの環境に関する実証実験業務 → 事業 3. (1) 仙台市遊びの環境に関する実証実験業務

仙台市の施策形成に主体的に関与すべく、「仙台市すこやか子育てプラン」に位置づく「遊びの環境の充実」施策の一環で実施される実証実験業務を受託した。

(2) 仙台市みどりの基本計画の新計画期間の施策動向の確認・提案

「プレーパークの拡充」の記述が入ったみどりの基本計画について、検討状況のヒアリングを行うと共に、他自治体事例なども含めた情報提供を行なった。3月に策定された「百年の杜づくりプロジェクト推進計画 2021-2025」においては、プレーパークの普及啓発、プレーリーダーの育成推進、活動の内容に応じた柔軟な公園運用などが記載された。

8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

(1) 海岸公園冒険広場の運営 【仙台市指定管理業務】 ((株)東洋緑化と共同企業体を構成し運営)

週6日開園（毎週火曜日休園） 来園者数：約 12.3 万人(2021.4~2022.3)

2021 年度の来園者数は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた。

デイキャンプ場の利用の休止・制限や駐車場の台数制限の期間が長かったことが影響し、利用者数は前年比で 2 割以上の減少となった。お盆前後や感染拡大が落ち着き利用の戻りつつあった 10 月の週末の天候が、よくなかったことも影響した。

デイキャンプ場は、2021/4/1(金)~5/11(水)の休園からの再開後、11/24(木)まで区画数・区画定員共に半数に制限しての利用となると共に、8/30(火)~9/12(月)には緊急事態宣言を受けて再度の休園となった。このためデイキャンプ場の利用者数については特に影響を受け、6 月以降制限無しの利用を続けた前年度と比べ 4 割以上の減少となった。1 区画あたりの利用人数も、コロナ禍前より減少した昨年度の 5.8 人からさらに減り、4.4 人となった。

とは言え、コロナ禍が長期化する中で、利用者自らが注意・工夫しながら遊びに来るようになってきている様子もうかがえた。昨年度同様、単に管理を強めるだけではなく、園内をひろびろと遊べるようにバス駐車場をあそび場として開放したり、遊具以外の四季それぞれの魅力の発信・遊ぶきっかけづくりをしたり…という工夫を行なった。また、国や自治体のガイドラインや感染状況をにらみながら、可能な範囲で利用制限を緩和し、感染リスクを抑えながら来園者がのびのび過ごせる環境づくりに努めた。

自主事業についても広大な屋外空間を活用して「密」にならない工夫をしながら、状況の許す範囲で積極的に実施した。

再開後の重要な役割である震災伝承・防災についても、継続して取り組んだ。震災発生から11年となる3月11日周辺には、冬季休業中のデイキャンプ場も展示会場として活用して来園者に防災・減災の啓発展示を行なった他、例年行っている防災あずまやの設営訓練の際に海岸公園他地区の運営者に声をかけて研修の機会を提供した。

(2) 冒険広場周辺地域で開催する遊び場

海岸公園冒険広場周辺の被災地域中心に公園再開後も続けてきた巡回型の各あそび場は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、「ひろびろとした環境」を活かして実施を継続した「東六郷であそぼう！」をのぞき、昨年度はいったん休止することとなった。世代を超えての多様な交流を生み出すことも目指している遊び場の取り組みは今年度も難しい舵取りを迫られたが、このような状況下だからこそ求められる部分を重視し、感染状況や地域状況を見ながら、対策をとったうえで可能な限り開催を目指した。

<若林区：七郷地域の遊び場> ①

七郷地域では、集団移転先・復興公営住宅も多く立地すると共に、地下鉄東西線開通も受けて増え続ける住民の受け皿になっている区画整理区域を中心に、新住民同士、新住民と旧住民、各校の児童同士など多様な交流の場となる遊び場づくりを目指してきた。コロナ禍で全ての活動が中止になった本地域での活動の再開が2021年度の課題だったが、地域状況も踏まえ、これまで続けてきた七郷中央公園・下荒井公会堂での活動ではなく、小規模・屋外の活動として荒井七丁目公園（※3月までの名称は荒井7号公園）で小規模な遊び場活動を行いながら、地域団体・地域施設との連携を強めることに力を入れた。

①「荒井七丁目公園で外あそび！」（荒井七丁目公園）計8回 のべ286名【子どもサポート基金助成】

新日市街地の境界にあり、これまで屋内の遊び場を実施してきた下荒井公会堂にほぼ近い街区公園で、夏休みから長期休み中の平日を中心に開始、4月以降は週末も含め月に複数回の開催とした。広報先は限定せざるを得ない難しさもあるが、こうした活動の意義をあらためて地域に知ってもらおう機会と位置付けて活動を展開している。これまでの七郷地区での活動に参加していた子ども・大人と再び顔を合わせる機会も多く、地域住民の参画が期待できるようになりつつある。

<若林区：六郷地域の遊び場> ②～④

若林区六郷東部地区（旧東六郷小学区周辺）で被災した人の多くは、同じ六郷地域のやや内陸の場所（六郷小学校学区周辺）に移り住んだ人が多く、移転先の地区と現地再建地域の双方で遊び場活動を実施してきたが、コロナ禍で移転先地区の活動は休止していた。2021年度は移転先地区での活動再開が課題だったが、久保田東あそび場を再開すると共に、新たに地域施設との協働による遊び場をスタートさせることができた。そのうちの2ヶ所で、コロナ禍のなか感染症対策をとりながら遊び場を開催することができた。

② 久保田東あそび場（久保田東3号公園）計8回 のべ139名【子どもサポート基金助成】

防災集団移転促進事業による「六郷地区」に設立された久保田東町内会の集会所に隣接する公園での遊び場。震災により転居してきた人とそうではない人との間を取り持つ役割も含め、多世代の交流の場となることを目指してきた。1年以上休止していたが、広報を限定したうえで夏休みから活動を再開、4月以降は週末も含めた月複数回開催として、あらためて地域への浸透を図っている。子どもが遊ぶことへの許

容度が高い地域であり、異年齢集団、世代間交流を進めることで、地域で子どもを見守る文化が形成されることが期待される。

③ <<連携>>六郷保育園隣接「キッズファーム」でのあそび場 計5回 のべ107名

【子どもサポート基金助成】および【ハタチ基金助成】

六郷復興公営住宅のやや北側、久保田東地区からもほど近い場所に開園した六郷保育園を運営する一般社団法人保育アートラボとの連携事業。同保育園隣接地の「キッズファーム」構想の中で、地域に開かれた遊び場の要素も取り入れていきたいとの相談を受けてスタートした。2021年度は、休耕田を畑として再整備していく段階だったが、使いながら場のイメージをつくっていくことも目指して「土で遊ぼう!」「秋を遊ぼう!」「火にあたろう!」と掲げて5回遊び場活動を試行した。

また、休耕田を畑地に転換するプロセスでは、子どもが遊べる場としての豊かな環境を整えるべく、手作業での井戸掘りや、重機も導入しての地形づくりも行なった。(協力:楽農村岡崎氏)

④東六郷であそぼう(井土地区周辺) 計4回 のべ74名 【子どもサポート基金助成】

六郷東部の現地再建地域において実施している「遊びの原風景」調査で地域の大人から聞いた子どもの頃の思い出の話をもとにした遊び場活動を、今年度も開催した。昨年同様、ひろびろした環境の中で今も地域に残る子どもの遊ぶ環境の魅力を再発見し伝えていくことの大切さを伝えることを目指した。

- ・10/3(日)「稲刈り中の田んぼでイナゴとり」(しばさき農園水田) 参加者12名
- ・10/11(月)「田んぼにイナゴをさがしに行こう」(井土集会所周辺) 参加者21名
- ・1/7(土)「氷で遊ぼう①」(井土集会所周辺) 参加者22名
- ・1/22(土)「氷で遊ぼう②」(井土集会所周辺) 参加者19名

<仙台市宮城野区:田子西地域の遊び場> 【子どもサポート基金助成】

防災集団移転促進事業の移転先になっている田子西地区・同隣接地の町内会を支援する形で継続実施してきた遊び場については、コロナ禍による休止以降再開の見通しはたっており、2021年度は田子西第二復興公営住宅での非公式な形の交流の場づくりに協力するに留まった。

一方で連携事業として、隣接地の多目的交流施設「Open Village ノキシタ」における乳幼児親子を対象にした外遊びの機会づくりへの協力を新たにスタートした。(計6回109名参加)

<その他の遊び場>

上記の他、若林小学校遊び場、青葉区片平地区の遊び場活動支援、岩沼市での「楽農村で遊ぼう」や里の杜あそび場開催支援等を継続的に行なってきたが、2021年度はいずれも活動の実施に至らなかった。

(3)他団体が実施する企画の開催支援等

例年、海岸公園冒険広場や遊び場活動実施地域で行っていた町内会や施設の行事等への協力は、昨年度はほとんどが中止となったが、2021年度は状況をみながら実施するところも増えてきた。こんな時だからこそ屋外の企画を…というところもあり、下記9カ所で13回の支援協力を行なった。

- 生出市民センター「生出わんぱく広場」(坪沼コミュニティセンター) 6/5(土)
- あらはまこども地域食堂「あらはまこども地域食堂」(遊び場担当) 6/13(日) 7/11(日) 8/8(日)
- 子ども食堂おひさま「子ども食堂おひさま」(遊び場担当) 6/13(日) 12/12(日)
- 六丁の目マザーグースこども園「遊びプログラム」 6/30(水)
- 仙台市嘱託社会教育主事研究協議会若林区部会・若林区中央市民センター「親子でチャレンジ若林デイキャンプ」10/23(土)
- 若林区中央市民センター ジュニアリーダーほか合同実践研修会 10/24(日)
- みやぎ生協「親子防災ワークショップ ひみつきちをつくろう!」 11/6(土) 11/13(土)
- 蒲町児童館「児童館 de サバイバル」 11/20(土)
- Open Village ノキシタ「クリスマス会」 12/23(木)
- わたしのふるさとプロジェクト「第7回 鎮魂の花火」 2/6(日)
- 若林区家庭健康課「『あなたのダイアリー』3.11からの10年間の足あと、そしてこれから」 5/2(月)

(4)交流サロン「縁側倶楽部」等の支援活動の実施 【みやぎ地域復興助成金事業】【真如苑寄付事業】

遊び場と連携し世代を超えた交流を目指した交流サロン「縁側倶楽部」は、お茶っこのみを行わずものづくりに絞る形で再開することとなった。本年度は、復興公営住宅や現地再建地域などから幅広く参加者を受け入れてきた久保田東縁側倶楽部について参加者を限定しての再開としたこともあり、六郷東部地区での「ひがろく縁側倶楽部」をスタートし、多くの方の参加を得た。コロナ禍で中止を余儀なくされた回もあったが、下記の通り年度内に3か所で計12回実施することができた。

集団移転先の集会所で継続的に実施し、大人が集うきっかけづくりを行なった。

- ① 荒井東復興公営住宅集会所「荒井東縁側倶楽部」
 - ・8/2(月)「つまみ細工の花マグネット」 参加者 10名
 - ・11/1(月)「アロマハンガーサシェづくり」 参加者 11名
 - ・12/6(月)「干支の貼り絵」 参加者 12名
 - ・3/14(月)「さくらの押し絵小箱づくり」 参加者 13名
- ② 久保田東町内会集会所「久保田東縁側倶楽部」
 - ・7/26(月)「つまみ細工の花マグネット」 参加者 9名
 - ・10/25(月)「アロマハンガーサシェづくり」 参加者 13名
 - ・11/22(月)「モザイクタイル鍋敷き」 参加者 11名
 - ・12/20(月)「干支の貼り絵」 参加者 12名
 - ・3/28(月)「さくらの押し絵小箱づくり」 参加者 10名
 - ・4/25(月)「さるぼぼづくり」 参加者 9名
- ③ 仙台市東六郷コミュニティセンター「ひがろく縁側倶楽部」
 - ・12/16(木)「モザイクタイル鍋敷き」 参加者 14名
 - ・4/4(木)「さくらの押し絵小箱づくり」 参加者 19名

(5)沿岸部の環境調査 12/5(日)

仙台市沿岸部では震災からの復旧工事は完了したものの、集団移転跡地利活用事業にともなう工事が続いている。そのなかでの生き物の回復状況を探り、これを通して被災地域の「再生」のあり方も考えていくことを目指し、海岸公園冒険広場やその周辺地域の生き物を調査した。昨年度末からの取り組みを継続し、「海岸公園冒険広場来園者と生き物を探る」形での実施とした。

(6)「ふるさとの杜再生プロジェクト」等、沿岸部におけるみどりの再生活動への参画

「ふるさとの杜再生プロジェクト」のメンバーとして、沿岸部におけるみどりの再生活動に取り組んだ。本プロジェクトは、仙台市・市民・NPO・企業等の力を結集し市民参加型で海岸防災林をはじめとした東部沿岸地域のみどりの再生を図るものである。同プロジェクト事業として海岸公園冒険広場での育樹会を協働で行なったほか、「ひがろく桜プロジェクト」も引き続き取り組んでいる。その他海岸公園冒険広場では、企業の緑化活動への協力なども行っている。

- ① 「ふるさとの杜再生プロジェクト」井土地区育樹会&生き物ピクニック 7/17(土)
- ② 「ひがろく桜プロジェクト」

2020年度、本プロジェクトで里帰りした東六郷コミュニティ広場の桜のほか、六郷東部各町内、六郷中学校・六郷小学校に植樹した桜の見守りを続けた。一部成育不良の木があったため、仙台市と協議し植え替えを行った。なお、本プロジェクトでの取り組みが評価され、4月には仙台市より「緑化功労者」として表彰も受けた。

(7) 杜々かんきょうレスキュー隊環境学習プログラム実践

杜々の市民環境教育・学習推進会議（FEEL Sendai）の環境学習プログラムに提案を行い、幼児を対象とするプログラム「いろ色発見隊～季節のカメラマン」を10か所で実践した。

実施園	実施日	実施場所	人数
鶴が丘マミーこども園	10/11(月)	近隣の公園	20名
蒲町おもちゃばこ保育園	10/16(火)	七郷中央公園	30名
つつじがおかもりのいえ保育園	10/22(金)	榴ヶ岡公園	12名
荒井マーヤこども園	10/27(水)	近隣田園	19名
かたひら保育園	10/28(木)	東北大学片平キャンパス内	25名
太白保育所	11/ 4(木)	ひより台公園	26名
愛子すぎのこ保育園	11/ 5(金)	近隣田園	27名
アスク長町南保育園	11/11(木)	地底の森ミュージアム芝生広場	20名
仙台保育園	11/17(水)	新寺四丁目公園	23名
中山とびのこ保育園	11/29(月)	中山とびのこ公園	40名

(8) 「のびすく若林」の運営への参画

2017年秋に開館の親子ふれあいプラザ「のびすく若林」指定管理者の構成団体として運営（代表団体はNPO法人せんだいファミリーサポート・ネットワーク）。週3日プレーリーダーを配置し、隣接する若林区ふるさと広場を活用して外遊びの機会をつくってきている。4月からは、その実績も評価され2期目の指定管理期間に入っている。

2021年度は、昨年度と同様コロナ禍のため事前申込・定員制での開館が原則になると共に、緊急事態宣言の発令を受けて8/30(月)～9/12(日)は臨時休館となる状況だった。そうしたなか、イベントの形をとる「のびすくプレーパーク」こそ6月～9月の間休止する措置をとったが、日常的な外遊びの取り組みについては、「屋内よりも屋外を」というニーズもあり、臨時休館した期間以外は対策をとったうえで継続した。

また、月1回出張形式で実施する「おそとのびすく in 木ノ下公園」についても、10月から12月まで試行した後、3月より本格的に活動を開始した。プレーリーダーが園内の自然素材を生かしながら親子がのびのび遊べる場をつくる他、せんだいファミリーサポート・ネットワークの職員が絵本の読み聞かせや手遊び、ペープサートなどを実施し、遊び場に馴染みのない親子も参加しやすい雰囲気をつくっている。

2018年度に地域連携事業でスタートした「出前のびすく 子育てサロン」についても、六郷市民センターで5回実施した。

9. 組織運営について

2021年度は、秋以降前年度選任した事務局長が週2日勤務して運営にあたるなど、2017年5月に策定した中期計画で具体的な取り組みとして挙げた「⑩調査研究・政策提言や団体マネジメント力をつけるため、事務局体制を強化する。」に向けて大きく前進した年となった。また2021年4月にネットワーク事業を海岸公園冒険広場から独立させた事業部門においても、仙台市実証実験事業の受託が決まったのに合わせ北山活動ベースを構えるなど、今後の事業展開に備えて体制を整えることができた。

その一方で、(今年度は実証実験事業の延期の影響が大きいとは言え、)単年度収支の赤字を計上する結果となっており、中長期的な見通しを持った運営が求められる。

その他今後に向けては、「ソフトバンク・つながる募金」や「コングラント」による寄付・会費の決済システムの導入を決め準備を行なうと共に、ホームページ自体もリニューアルして支援者・参画者の増加を図ると共に事務局の負担軽減につながる体制を整えている。年度末に新たな中長期ビジョンを策定したが、今年度整えた基盤を実際に運用・活用していくのは今後の課題として残っている。